君津市地域おこし協力隊活動報告

隊員名：深山 雅弘
指名日：令和４年１１月１０日

活動月	令和５年 10 月
主な活動内容	**1.「清和ウェルカムハウス」プロジェクト開始** **2. 君津市主催の市民団体情報交換会に参加**

1.「清和ウェルカムハウス」プロジェクト開始

どこの町にもあった「田舎の商店」。お菓子にパンにジュースにお酒、切手にタバコなど、なんでも売ってる雑貨屋さん。千葉県で 2 番目に高い山、鹿野山の山頂にもそんなお店がありました。90 代のおばあちゃんが店番してた小さな商店。そこに行けば大好きなおばあちゃんに会える。そこにいけばいつも知り合いがいて茶飲み話に花を咲かせる。地域のにぎわいをつくる、地域にかかせないもの。そういうお店が日本中いたるところにありました。

時代が変わりモーターリゼーションが普及し、多くの人々は品ぞろえ豊富な街道沿いのスーパーに買い物に行くようになりました。後継者がいない田舎の商店は閉店し、使われないまま空き家になっています。コミュニティ清和では、そこを新たなコミュニケーション拠点として蘇らせ、鹿野山に新しいにぎわいを作っていこうというチャレンジを始め、その拠点を『清和ウェルカムハウス』と名付けました。

ここでなにをやるのかというと２つあって、君津市清和地区に眠っている空き家を掘り起こし、空き家の案内所として活用します。都心から君津（清和地区）に移住しようとする人に向けて「空き家ツアー」というイベントを開催。ただ物件を紹介するだけじゃなくて、先輩移住者や地元住民との交流会をセットにし、地域での暮らしを感じてもらい、その地域を好きになってくれて移住してもらおうというイベントです。

もうひとつは、清和地区を楽しむ・感じるアクティビティの案内所。コミュニティ清和の人気アクティビティで「年間通しの稲作体験」というのがあります。その集合場所だったり、清和を楽しむワークショップを開催したりとか、コミュニティスペースとしての利活用ですね。地域の人達にとって「商店」は単なる個人の所有物ではなくて地域のもの（地域にとって大切なもの）なんです。イベント実施日以外は、地域の皆さんで手作りショップや趣味の集まりの場や憩いの場としてご利用いただけたらうれしいです。

また、「実感の循環学校」のメンバーと手分けして店内の大掃除をやりました。今はまだまっさらな状態なので、これからみんなでアイディアを出し合いながら、どういうふうに作っていこうか考えたいと思います。どんな感じに蘇るか、楽しみにしていてくださいね。

2. 君津市主催の市民団体情報交換会に参加

君津市 市民活動支援課が主催する市民団体の情報交換会に参加してきました。前回はセミナー＆各団体の活動紹介という内容でしたが、今回は具体的に活動するうえで困っていることや課題となっていることを洗い出してみるワークショップ形式で進められました。

さまざまな課題があげられましたが、共通項として以下の 3 点に絞られ、それらを解決するアイディアを出し合いました。
①人に関すること
②お金（資金繰り）に関すること
②情報発信について

①人に関すること
どの団体でも共通して「活動人員が足りない」、「地域の方々に活動を知ってもらい参加してもらうにはどうしたらいいか？」という課題があります。そして後継者不足も。若い世代にバトンタッチしたいが若い世代と交流する機会がない。そもそも地域と交流するシチュエーションがないので活動内容が地域に伝わっていない。「活動内容が団体外の人に見えるようになればもっと人が集まってくるのだが…」。拠点があればそれをハブとして人が集まってくるという意見もあげられました。場づくりですね。

②お金（資金繰り）に関すること

ボランティアでやっていることなので自己資金を投下することはできない。なので助成金や補助金を確保して運営するんですが、その申請（手続き）のしかたが分からない。行政でどんな支援策があるのかの情報へのアクセスルートも不足していると感じます。一方で、クラウドファンディングでの資金調達を検討したり、事業化や NPO 法人化といった踏み込んだアクションを検討している団体では、それを進めるうえでのスキル不足で足踏みしている現状も確認できました。このような取組みにハンズオンで並走する『しくみ』が必要だなと思います。

③情報発信について

これは「人に関すること」とも共通するんですが、情報発信力が足りないと切実に感じていること。情報発信力があればもっと地域住民をまきこめるのに…。ホームページを開設したり、ポスターやチラシを作ったり、SNS の活用を試みてはいるが、専門の担当者がいるわけじゃないので有効活用しきれていないというお悩みです。その一方で積極的に情報発信に取り組んでいる団体からは、個人情報管理などセキュリティー面での不安があげられました。

短い時間でしたが様々な団体のナマの声に触れられて勉強になりました。これは私の個人的な考えですが『団体どうしの連携』が解決の糸口になるんじゃないだろうか。団体それぞれで活動は様々ですが、人がかぶる（複数の活動に参加している人多数）、目的も（一部）かぶる、場所（拠点）や IT など必要なリソースもかぶっています。

様々な団体が共有で使える情報発信のプラットフォームがあえば、そこで賑わいと交流が生まれる。その賑わいは市民活動に参加していない人の眼にもふれ、興味と行動を促すマグネットになるのではないかと思います。地域おこし協力隊の「地域コミュニティ支援」として、私にできることはないかと考えてみます。